

平成30年度N I E実践報告

鹿児島県立鶴翔高等学校

1 はじめに

N I E実践校の指定を受け4年目となった。昨年度に引き続き以下の4項目を挙げて取り組んできた。

- (1) 毎日行っている朝読書のうち、金曜日を「N I Eタイム」と設定し、全校生徒で新聞記事を読み、感想を書く。
- (2) 南日本新聞の広場欄「若い目」への投稿
- (3) 校内掲示の工夫
- (4) 授業などの集団指導や小論文・作文の個別指導での活用

今回はN I E実施校の最終年度として、これまでに行ってきた取組と、今年度意識して行った取組について報告する。

2 実践内容

(1) N I Eタイム

実践指定以来ずっと行っており、10分間で記事を読み、感想や考えを書く取組である。今年度も昨年度と同様、図書委員会で記事を選ぶこととした。当番の生徒に昼休み等の活動時間を利用して、気になる記事を選定させた。生徒が興味を持ちそうなことや関心を持ってほしいことなど、高校生目線で選ばれた面白い記事が多かった。なかでも今年度は、政治や社会事象に関する記事を選定していることが多く見受けられた。これまで実施したものについていくつか取り上げる。

① 「いま子どもたちは 三十一文字（みそひともじ）」 （朝日新聞 2017/6/16）

記事を読んで、今の自分の気持ちを短歌で表現する。

- ・分からない自分の夢が決まらない いろいろあってたくさんあって（1年男子）
- ・いろいろとやること多く忙しい 休みの日まで部活ざんまい（1年女子）
- ・テスト前眠い目こすり数時間 いつも以上に気合いを入れて（2年男子）
- ・目標を持って臨めば 何事も成果がきっと見えてくるはず（2年女子）
- ・3年生さまたまな想い胸に秘め 明るい夢持ち自分の進路（3年男子）
- ・追われてるテストに進路検定も 未来のための頑張り時だ（3年女子）

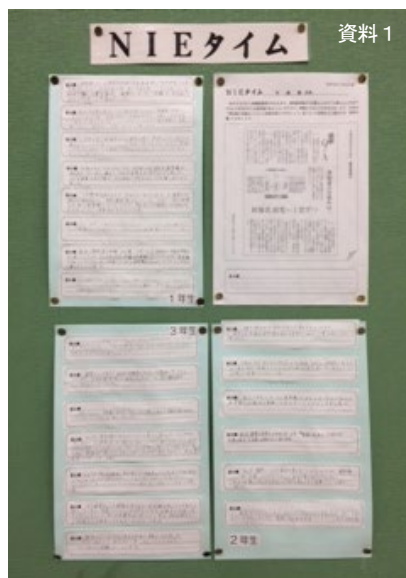
生徒それぞれの心境や状況が表れていて興味深い短歌ができた。

② 「成人年齢の18歳引き下げについて」 （南日本新聞 2018/6/14）

記事を読んで、賛成か、反対か、自分の考えを述べてみよう。

賛 成	反 対
・早いうちから大人の自覚をもったほうが、一人前として意識を高めることができると思う。（2年男子） ・婚姻年齢が男女統一されるのは、男女差別をなくすという意味では良いと思います。（2年女子） ・18歳では自分でいろいろと考えることができるし、社会でやっていける力は身に付けられていると思う。（3年女子）	・大人としての社会になじむための準備期間があってもよいのではないか。（1年男子） ・18歳=成人という認識であるから、飲酒、喫煙をする18歳の人が多く出ると思う。（3年男子） ・2歳しか変わらないと思うかもしれないけど、18歳では正しい判断はまだできないし、不安です。（3年女子）

短歌や川柳などをとおして自分のことを表現させる時間にした。短時間にもかかわらず、ユニークな作品ができたことに驚いている。また、時事問題や社会的事象に対して自分の意見を書かせると、生徒それぞれが感じていることが文章から伝わってきた。



4年目となると生徒たちにとって習慣づけられ、毎週金曜日のN I Eタイムの前には、各クラスの図書委員が職員室に取りにいき、取り組む様子がみられた。生徒玄関にN I Eコーナーを設けているが、昨年度は新聞の第1面を掲示すると同時に、生徒の書いた感想・意見の一部をコピーして掲示した(資料1)。

(2) 南日本新聞の広場欄「若い目」への投稿

これまでに多くの生徒が掲載された。昨年8月には「若い目賞」をいただいた。しかし、4年間を通して、作文を書く機会を設けることができずにうまくいかなかった。

(3) 校内掲示の工夫

生徒玄関とN I Eの部屋への掲示ができた。今年度は、「教えて！阿つくん！」というコーナーをそれぞれに設け、地元阿久根に関する記事を掲示した。(資料2) 今年度は映画「かぞくいろ」の舞台として注目された阿久根だが、登下校の際には、生徒たちが興味を示しながら記事を覗いていた。また、いつでも新聞が閲覧できるように閲覧コーナーを設けた。(資料3) 夏課外や就職・進学試験前になると生徒たちが通う姿がみられた。



(4) 授業などの集団指導や小論文・作文の個別指導での活用

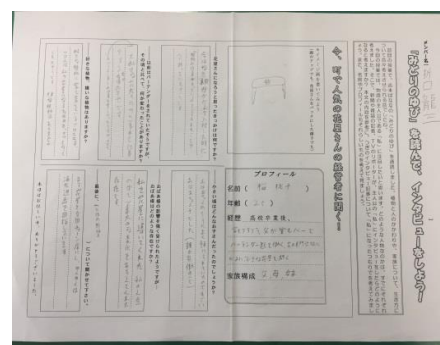
授業での集団指導では、おもに国語科、地歴公民科が中心となって取り組んできた。その中でいくつか取り上げる。

① 国語での授業を通して

ア 物語の主人公へのインタビュー記事を作成する(平成28年度)

2年生の現代文Bで、よしもとばななの小説『みどりのゆび』を学習した際に行った活動である。内容は、主人公の女性が植物好きだった祖母との関わりの中で、花屋を志していくというものである。主人公の名前や年齢などが明記されておらず、読み進めていく中で、読み手が主人公について想像する余地を残した物語であった。そこで、読み

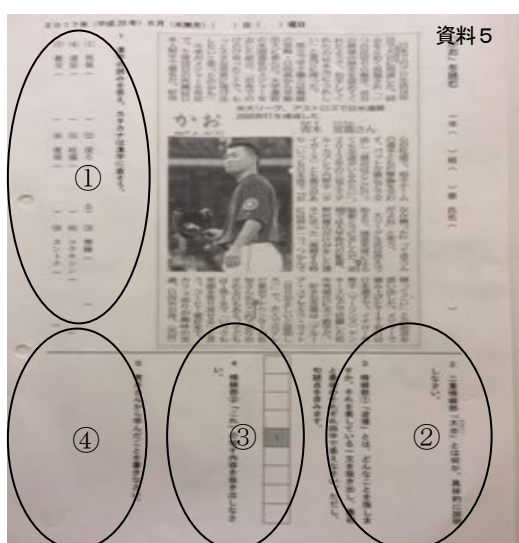
を深めるため班ごとに主人公へのインタビュー記事を作成させた。(資料4) まず、記事の中で柱となる質問を大きく3つ取りあげ、これまでの学習を振り返りながらその質問に対する答えを各自で考えさせた。この下書きの時間は1時間で行う予定であったが、比較的長い文章だったため内容を思い出しまとめることに時間がかかり、最後まで書き終えることができなかった生徒もいた。次の時間には、各自作成した下書きを持ち寄り、班で実際にインタビュー記事を作成させた。書いている内容は同じでも、一人一人言葉の使い方や表現が違い、初めはどのように記事にまとめていくか



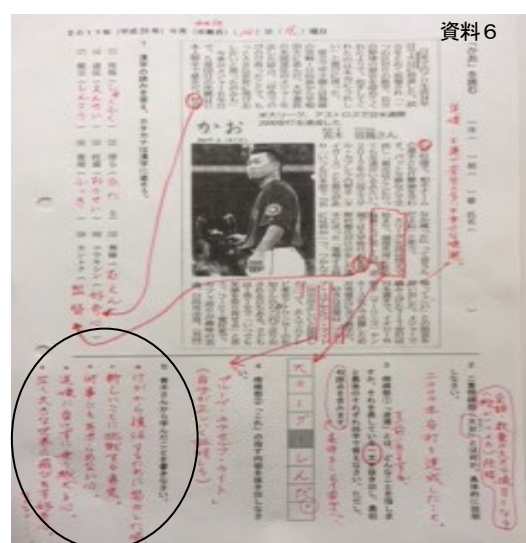
戸惑っている班もみられたが、実際の新聞のインタビュー記事を参考として示すことで、読者に伝わりやすい記事へと近づけることができた。内容理解の深化と共に、事実を正確に、心情を分かりやすく伝えるために、どのように「書く」べきかを考えさせ、学ばせることができた実践である。

イ 「かお」を読む（平成29年度）

南日本新聞の「かお」を用い、読解力・表現力といった国語力を伸ばしたいと計画した。1年生では「職業調べ」という課題に取り組んでいるが、さまざまな分野で活躍している人の生き方は職業観を養うためにも最適な記事であった。さらに、短時間で活用しやすいこともあり、ほぼ毎時間継続してきた。「かお」の利点は、毎日同じ大きさで字数がほとんど変わらないことである。そのため、準備も同じスタイルのプリントで対応できる。また、話題の人がどんな理由で取り上げられているのか読み取りやすく、どのような努力をして今の立場に至ったのかといった、参考にすべきことが凝縮されている。政治・経済や国際社会関係の難語句もあるが、授業最初の5分間を「かお」を読み書く活動にあてた。係にプリントを配らせ、開始と同時に組みませた。



資料5

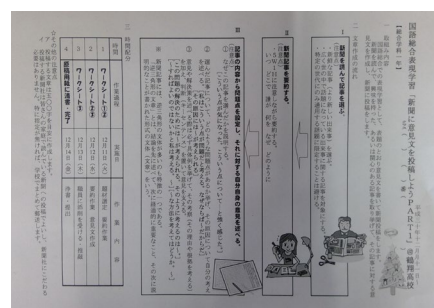


資料6

準備するプリントは上の通りである(資料5)。①漢字の読みと書き取り(記事から探し出すだけ。「務める」「勤める」は頻出だった)、②慣用表現、(白羽の矢が立つ、苦杯をなめる…)、四字熟語(空前絶後、十人十色…)、漢字の構成(漢字検定対策)(反対の意味、修飾被修飾の関係、動詞目的語の関係、同じ意味を持つ漢字…)、対義語(積極的、革新的…)、カタカナ語(ストイック、パブリックビューイング…)、指示語、③「かお」氏の生き方に関すること(信念、座右の銘など)、④「かお」氏から学んだこと。大きく分けて4つになり、記事の中身に合わせ問題を作成した。読解した後は、簡単な答え合わせを行い回収し、裏面に解答例(資料6)を印刷して次時に返却する。上述の④「かお」氏から学んだことは、生徒の書いたものを複数(資料6楕円部分)載せておき、友人の考えを確認させ共有させた。また、「かお」を「読むこと」から「書くこと」へのステップアップとして、「かお」の共通点や気づいた点などを挙げさせ、文章の分析を行い、職員にインタビューし記事をまとめる表現活動を行った。

ウ 新聞に意見文を投稿しよう（平成30年度）

総合学科1学年の「国語総合」での表現学習として、新聞記事を読み、意見文を書き投稿する学習を以下の通り行った。(資料7) 題材選定、要約作業、意見文作成を行い、最後にはグループとなり、意見の共有を図った。



資料7

② 地歴公民の授業を通して

ア 授業の導入時に新聞記事やニュースを取り上げる。

「気になるニュースは何ですか」と、授業の冒頭、最近のニュースについて5分ほど新聞記事を取り上げている。1学期当初は取り上げる記事に対して、全体的に興味は示すが受動的な態度をとっていた。しかし、2学期、3学期と扱っていくうちに、生徒自らがニュースについて持ち出して説明し、他者と共有する態度がみられるようになった。いま起きていることに対して興味・関心をもたせる点においては有意義な活動であったと考える。

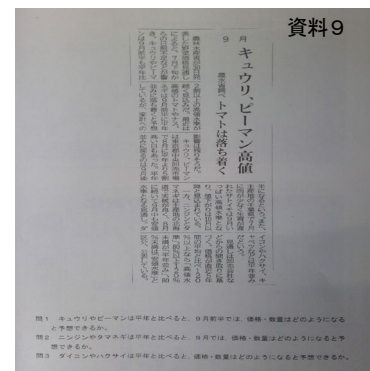
イ 読み比べ（平成27年度）

同時に多くの新聞を購読していると、同じテーマで読み比べができる。この年には「安保法制」や「TPP」、さらには「パリでのテロ」といった大きなトピックがあり、新聞を一面で取り上げられており、生徒は興味・関心をもっていた。また、「安保法制」については、「現代社会」の授業で、6紙の社説をコピーし、グループで読み比べ、最後には自分の意見をまとめる取り組みをした。この授業を通して、知識を深め、自分の意見をまとめることができ、生徒にも大変好評だった。（資料8）



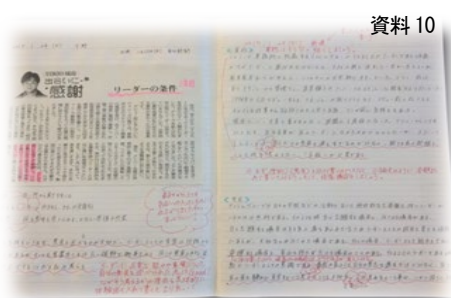
ウ 資料、ワークシートとしての活用（平成29、30年度）

より学習内容の理解を深化させるために、資料やワークシートとして活用している。資料9は政治経済『市場機構―需要と供給―』の単元において用いたものである。この単元ではグラフをとおして均衡価格や数量を導くものであるが、新聞記事を用いて、私たちの生活において密接に関連していることを説明した。グラフからではしくみについて理解できない生徒も多かったが、記事を扱うことにより、理解できた生徒もいた。



③ 小論文・作文の個別指導での活用

ア リレー小論文



28年度から取り組んでいる活動で、現在も続けている。2年生進学クラスで「小論文ノート」を作らせている。（資料10）選ばれた記事を要約し、自分の意見を書くという読解と表現の学習である。ノートを渡された者は、前の人が選んだ記事を読み、自分の意見を書いていく。書き終わったら、次ページに自分が気になった記事を貼りつけて、次の人へリレーしていく。少人数で気の置けない友人同士の「リレー」に熱が入っている。

3 NIE実践校として

4年間NIE実践校として、教科、学校全体をとおしてさまざまな活動を行ってきた。生徒の表現力や思考力に成果が表れたものがある一方で、継続的に取り組むことができなかったものもあった。そのなかでも「NIEタイム」は4年間毎週継続的に行ってきたものであるが、生徒の思いや意見をもっと共有する場を設けることにより、さらに成果がでたのではないかと反省している。最後に、実践校として貴重な経験をすることができました。ありがとうございました。